

ドライブ・テクニク

CORONA **MARK II 1700** HARDTOP / **1900** HARDTOP



経済的な運転

1. 車速にマッチしたギヤの変速を行なってください。
2. 低速ギヤで高速までひっぱったり、トップ・ギヤでノッキングさせながら走るのはエンジンに悪影響をおよぼすばかりでなく燃料消費を増大させます。
3. 加速はゆるやかに行ない不必要な急加速，急ブレーキは慎んでください。また，所要のスピードまで加速したら，できるだけ一定のスピードで走り続けます。
4. 不必要な高速走行は慎んでください。
5. 正しい取り扱いと十分な定期点検をすることにより，車の性能を100%発揮させることは，燃料消費を節約するものにもなります。
6. 発進，停止の回数はできるだけ少なくしてください。発進時には多量の燃料を必要とします。
7. エンジンの冷え過ぎは熱効率を悪くし燃費を増大させます。寒冷時にエンジ

無断複製禁止

ンが暖まりにくいときには、エンジン前面に適なおおいをして冷却水温が80℃前後になるようにしてください。

ブレーキの 上手な使い方

ブレーキを踏む場合は、周囲の状況に注意してください。特に後続車が接近して走っているときは、一、二度軽くブレーキをかけ、後続車に注意をうながしてください。

高速で走行している場合、また長い下り坂や急な下り坂では、フット・ブレーキに頼らず、エンジン・ブレーキを使用するのが安全です。フット・ブレーキは要所だけ使用するようにします。

坂を下る場合、ギヤは登りのとき使ったギヤを使うのが基本です。ただし、トヨグライド車においては、適宜②レンジ、または①レンジにシフト・ダウン(後述)します。

もし、フット・ブレーキだけで長い坂を

下りますと、フェード現象やペーパー・ロック現象(後述)を起こし、ブレーキが効かなくなることがあります。

また、降雨時とか水たまりを走行しますと、ブレーキ・ドラム内に水が浸入し、一時的にブレーキがきかなくなることがあり、危険です。このようなときには、安全のため速度を落とし、ブレーキ操作をくり返しながらしばらく走りますと、ブレーキ・ライニングの湿りが早く乾燥し、ききがよくなります。

シフト・ダウンについて

シフト・ダウンは、次の車速以下で行なってください。あまり高い速度のときにシフト・ダウンを行なうと、エンジンがオーバーランし損傷することがあります。

●ギヤー・ミッションの場合

ローへ	45km/h 以下
セカンドへ	80km/h 以下
サードへ	125km/h 以下

●トヨグライドの場合

ローへ	70km/h 以下
セカンドへ	105km/h 以下

フェード現象について(踏みごたえがある)ブレーキの摩擦面が過熱すると、摩擦係数が急激に低下して、摩擦力が減る結果同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでも制動距離が非常に長くなるか、きかなくなることがある現象をいいます。

ペーパー・ロック現象(ブレーキ)について(踏みごたえがない)

ブレーキが極度に過熱されますと、ブレーキ・フルードが沸騰し、あわができます。したがって、ブレーキ・ペダルを踏む力は、あわを圧縮するだけでライニングを押し付ける力にならず、制動力がきわめて低下する現象をいいます。

■雪路・凍結路の運転

雪路とか凍結路を走るには、スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンが必要です。スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンの使用が条例により義務づけられている

地域もありますのでご注意ください。

スピードの出し過ぎ、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは非常に危険です。アクセル・ペダルの操作によりうまくエンジン・ブレーキで減速を行ないスピードをコントロールしてください。

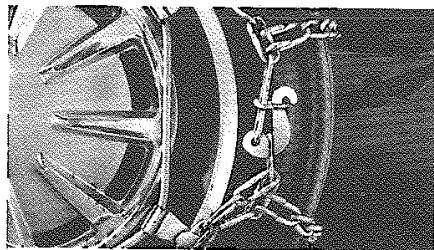
このような路面でブレーキを踏みますと簡単にスリップや横滑りをおこしますから、前車との間隔は充分広くとり、急ブレーキを踏まなくてすむようにしましょう。

もし車が横滑りをはじめたらブレーキ・ペダルを離し、フロント・タイヤを転がして車の進路をたて直します。タイヤがロックしますと操行不能になります。

雪が少し積った程度で凍結していなくても同様の注意を払ってください。

タイヤ・チェーンをつけると、大きな駆動力は得られますが、横すべり防止の効果はほとんどありませんのでご注意ください。

■タイヤ・チェーンのつけ方

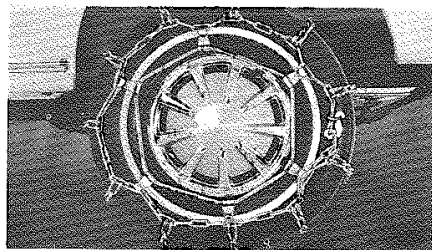


チェーンは後2輪につけます。まず輪止めをし、ジャッキ・アップをして、タイヤ・チェーンのクロス・チェーンの折曲げが写真のように外側になるようにしてタイヤの上にかぶせ、チェーンの両端を連結します。

チェーンを連結するときは、チェーンをいっぱい張って、タイヤの内側を尤にかけます。

クリップはできる限り奥の環へかけ、余った環は針金等でむすび、ほかに当るのを防止します。

つぎに、チェーン・スプリング・バンドの各爪を外向きにして掛け、チェーンの環を張ります。



スペア・タイヤにタイヤ・チェーンを装着し、タイヤを取かえる方法にすれば比較的簡単に作業が行なえます。

ラジアル・タイヤにタイヤ・チェーンを装着し、非雪路にさしかかった時は必ずタイヤ・チェーンを取り外してください。そのまま走行しますとサイド・ウォール(タイヤの横の部分)が損傷します。

高速道路走行の場合の注意

1. 高速道路の本線への進入は、本線上の車に注意し、加速車線を一気に加速して、十分車速がついてから、ターン・シグナルを出してはいります。

無断複製禁止

2. 車間距離は十分保ちます。100km/h 時には100m以上保ちましょう。

3. 高速での急ハンドル、急ブレーキはもっとも危険です。

4. 追い越しは、前もってターン・シグナルを出し、前後、特に追い越し車線の後方に注意し安全を確認したうえで、追い越し車線にはいります。インサイド・リヤ・ビュー・ミラーに追い越した車の右のヘッドランプが見えるまで追い越し車線を走ってから、ターン・シグナルを出して走行車線に戻ります。

5. 道路標識に注意しましょう。高速道路では、行き過ぎても戻ることができませんので、出口の標識には特に注意してください。

6. 高速道路から出るときは、出口の案内標識に注意し、減速車線で十分速度を落します。ランプ・ウェイでは、制限速度を厳守しましょう。

7. 一般道路に戻りましたら、高速道路と同じ運転感覚で走行しますと、ついスピードを出し過ぎますので、ご注意ください。

さい。

8. 降雨時、特に水はけの悪い舗装道路を高速で走行する場合は、タイヤの路面への接地力が低下いたしますので、急ブレーキ、急加速、急ハンドルなどは慎み、スピードも控え目にします。

緊急処理

■ブレーキが効かなくなったとき
ブレーキの上手な使い方の項(45ページ)で述べましたように万が一フット・ブレーキが効かなくなりましたらあわてずに、ギヤをシフト・ダウンし、パーキング・ブレーキをいっぱい作動させて車を止めます。

■オーバー・ヒートしたとき
オーバー・ヒートのときは次のような現象があらわれます。

水温計の指針が 120℃を越え、エンジンからキンキン音が発生したりして極端に力がなくなってきます。

ラジエーターから蒸気が吹き出します。このようなときにはすぐにラジエーター

・キャップをとらないでください。蒸気が噴出して火傷をすることがあります。オーバー・ヒート気味のときは次の処置をとってください。

1. 車を止め、エンジンをフードを開けて通風をよくする。

2. 車を止め、エンジンをアイドル回転より少し高め(1500回転位)にして、しばらく(5分~10分)運転する。しかし、ファン・ベルトの切損(チャージ・ウォーニング・ランプが点灯する)ラジエーター・ホース等からの水漏れやラジエーターから蒸気が吹き出しているときにはエンジンをすぐに止めなけりません。

3. 水温が適温になりましたらエンジンを止めます。

4. オーバー・ヒートしたときは冷却水が少なくなっていることがありますので冷却水の点検・補給をしてください。

このとき、急にラジエーター・キャップをはずすと熱湯が噴出して火傷をすることがありますのでキャップに布を巻きつ

け除々に回し蒸気を逃がしてから取外します。

夏期は外気温上昇のため手入れ不十分な車はオーバー・ヒートを起こす危険性がありますので次の事柄にご注意ください。

○冷却系統（ラジエーター・ヒーター・ホース等）に水漏れのあるときは取扱店のサービス工場で点検をうけてください。

○ラジエーターの冷却フィンにゴミやこん虫の死がいが付着し、冷却効果を阻害していることがあります。

○ファン・ベルトの張り具合は正常ですか

冷却系統が完全でも長い坂道を登り続けているときや混雑した市内を長時間、ノロノロ運転を続けているときに水温計が100℃を越えることがあります。トヨタ車のラジエーターは加圧式を使用していますので水温計が100℃を少し越えましてもラジエーター・キャップを外さないかぎり冷却水は沸騰いたしません。

このようなときには次のような運転をしてください。

① 交差点等で停止するとき、フット・ブレーキをなるべく使わないで、エンジン・ブレーキを多用してください。

② 特に長い坂道を登るときはエンジンの低い回転数のところで無理をしないでミッションのギヤを一段おとしてエンジンの回転を上げて登るようにしてください。

③ 交差点等で停止したときはアクセルペダルを軽く踏んでエンジンの回転数を1500回転位に高めにして待機ください。冷却効果が大きくなります。

■ エンストしたとき

踏切りや交叉点でエンストし簡単に始動できないときはスターターで車を動かすことができます。

平坦路ならギヤをトップに入れアクセル・ペダルをいっぱい踏んでスターターをまわします。スターターは長時間（20秒以上）作動させますと損うことがありますのでご注意ください。